

環境審議会資料
平成28年8月29日
環境部環境総務課

(仮称) 秋田港洋上風力発電事業について

1 概要

秋田県が公募した秋田港での洋上風力発電事業は、平成27年2月に丸紅株式会社を事業者として選定し、同社を中心に開発可能性調査を進めているところであり、環境アセスメントについては、方法書の縦覧を終え、知事意見（別紙）が経済産業大臣に通知されたところです。

2 発電規模（方法書による）

最大70,000kW（3,450～6,000kW級風車を最大14基）

3 工程（予定）

- | | |
|-------------|------|
| (1) 平成29年度 | 実施設計 |
| (2) 30～32年度 | 建設工事 |
| (3) 33年度～ | 事業開始 |

4 秋田港湾内対象事業実施区域





環 管 一 666

平成28年7月13日

経済産業大臣 林 幹雄 様

秋田県知事 佐 竹 敬 久



(仮称) 秋田港洋上風力発電事業環境影響評価方法書
に対する意見について (通知)

環境影響評価法第10条第1項及び電気事業法第46条の7第1項の規定に基づく
環境の保全の見地からの意見は、次のとおりです。

なお、関係市長から別添のとおり意見がありました。

1 総括的事項

- (1) 環境影響評価を行う過程において、環境影響評価の項目及び手法の選定等に係る事項に新たな事情が生じた場合は、必要に応じて環境影響評価の項目及び手法の見直しを行う等、適切に対応すること。
- (2) 設置する風力発電機の規模や配置等が確定していないことから、事業計画を具体化する過程における検討事項及び結果、その判断に至った経緯を詳細に準備書に記載すること。
- (3) 洋上風力発電事業の実施に伴う水中音が海域に生息する動物に及ぼす影響等については十分に解明されていない点もあることから、国内外の最新の知見や事例等の集積に努め、必要に応じて調査、予測及び評価に反映すること。
- (4) 対象事業実施区域周辺には既設及び計画中の風力発電所が存在することから、これら他事業の諸元等の情報入手に努め、複合的又は累積的な環境影響について適切に調査、予測及び評価すること。

2 個別的事項

(1) 騒音及び超低周波音

施設の稼働に伴う騒音及び超低周波音の調査時期について、夏季において窓の開放時間が長い地域特性を考慮し、秋季の調査に加え、夏季においても調査の実施を検討すること。

(2) 水質

風力発電機基礎の設置や海底ケーブルの敷設に伴い海底土砂の巻き上げ等が発生するおそれがあることから、対象事業実施区域及びその周辺における海底の底質の状況や流向・流速を可能な限り把握した上で、工事中の水の濁りの影響について、必要に応じて調査地点の追加や見直しを検討する等、適切に予測及び評価すること。

(3) 動物（海域に生息する魚類等）

事業の実施に伴う魚類等の遊泳動物やその卵・稚仔等の海域に生息する動物への影響について、専門家等の助言を踏まえ、ハタハタ、サケ、サクラマス及びアユ等の魚種を予測対象種として選定し、可能な限り生息状況を把握した上で、適切に予測及び評価すること。

(4) 植物（海域に生育する海草藻類等）

事業の実施に伴う海域に生育する植物への影響について、必要に応じて現地調査の測線を防波堤の方向に延長する等、海草藻類の生育状況を適切に把握すること。

(5) 景観

対象事業実施区域周辺の日常的な生活環境からの景観について、眺望点からの風力発電機の可視領域を考慮し、必要に応じて調査地点を追加する等、適切に調査、予測及び評価すること。

【担 当】

秋田県生活環境部環境管理課

環境審査班 高橋、片山

電 話 018-860-1601

FAX 018-860-3881



環 総 第 5 0 号
平成28年6月17日

秋田県知事 佐 竹 敬 久 様

秋田市長 穂 積



(仮称) 秋田港洋上風力発電事業環境影響評価方法書に対する意見について (回答)

平成28年5月30日付け環管-374で照会のあった標記の件について、次のとおり回答します。

記

1 自然保護対策関係

建設予定地の南西側にある土崎港地区付近の調査では、植物に関しては、イソスミレ【セナミスミレ (県EN)】、エゾウキヤガラ (県VU)、ハタガヤ (県VU) などの希少種の生息が確認されている。(平成16年度自然環境現況調査)

昆虫類は、向浜地区では、ハマヤガ (EN)、イソコモリクモ (VU) などの希少種の生息が確認されている。(平成27年度調査)

また、鳥類については、比較的行動範囲が広く、このエリア周辺を行動範囲としている種では、アリスイ (県EN)、オオワシ (県VU、VU) などの希少種が高清水公園のポイントで確認されている。(平成16年度自然環境現況調査)

建設予定地付近の陸上の状況もほぼ同じと考えられることから、環境影響調査の実施に当たっては、対象事業実施区域内の動物、植物の生息環境や生態系全体へ影響を与えないよう、十分に配慮すること。

(凡例)

EN=環境省レッドデータブック絶滅危惧種I B

VU=環境省レッドデータブック絶滅危惧種II

県EN=秋田県レッドデータブック絶滅危惧種I B

県VU=秋田県レッドデータブック絶滅危惧種II

2 騒音・低周波音対策関係

(1) 工事の実施に当たり、基礎杭等の打設を行うことから、工事の実施の際の騒音に関する項目を評価項目として選定する必要があるか検討し、適切に調査、予測および評価を行うこと。

(2) 風力発電設備については、他の設備と比較し、騒音レベルが低くても非常に不快に感じる人が多いとされていることから、風車設置後の影響について適切に調査、予測および評価を行うこと。特に低周波音については、環境基準等が設定されていないことから、生活する上での心理的影響、人の感覚閾値等や建物等への物的影響について、国内外の最新の科学的知見等を踏まえて調査を行い、現況と風車設置後の予測値を比較検討すること。また、評価に当たっては、専門家の意見を十分に聴取すること。

3 振動対策関係

工事の実施に当たり、基礎杭等の打設を行うことから、工事の実施の際の振動に関する項目を評価項目として選定する必要があるか検討し、適切に調査、予測および評価を行うこと。

4 濁水対策関係

風車基礎および海底ケーブル工事時に濁水の発生が考えられることから、周辺への影響を最小限にとどめるよう配慮し、適切に調査、予測および評価を行うこと。